

CHIKAKO KAIDO

Gebrauchsanweisung zum Verschwinden

Inspirieren ohne zu erzählen. Die Japanerin Chikako Kaido bewegt sich in ihrer aktuellen Produktionen auf ästhetischen Pfaden, die Konvention und Tradition hinter sich lassen.

Nachkritik von Thomas Linden

Chikako Kaidos choreographische Fantasie ist beachtlich.

Bettina Trouwborst zum Gastspiel 'Azamino-Tokio' in Krefeld, Mai. 2016

私

消えが る時

振付…皆藤千香子
ダンス…ヤシヤ・フーシユテート
ユーディット・ヴィルヘルム
荒川創也
ヴァイオリン…喜多直毅

音で水がゆれる。
水のゆれに神の声をみた。



2017年 12月 8日〈金〉

※開場は開演の30分前

19:30 開演

9日〈土〉

16:00 開演

会場：中野テンプシコール

Inspirieren ohne zu erzählen. Die Japanerin Chikako Kaido bewegt sich in ihrer aktuellen Produktionen auf ästhetischen Pfaden, die Konvention und Tradition hinter sich lassen.

Nachkritik von Thomas Linden

「言葉を超えたインスピレーションに満ちた作品。
日本人皆藤千香子の最新作は、
慣習や伝統を脱して新たな美の軌跡を描いた。」

トーマス・リンデン

Chikako Kaidos choreographische Fantasie ist beachtlich.

Bettina Trouwborst zum Gastspiel 'Azamino-Tokio' in Krefeld, Mai.2016

「皆藤千香子の振付のファンタジーには
目を見張るものがある。」

ベッティナ・トロウヴルスト

2016年5月「Azamino-Tokio」クレフェルド公演の批評より

私 消える 時

【チケット料金】

前売り3,000円 / 当日3,500円

【お問い合わせ・チケットのお申し込み】

080-3435-9971 (皆藤) / chikakokaido@googlemail.com

コンセプト共同制作：アントニオ・ステラ

ドラマツルグ：フェリックス・マイヤー・クリスチャン

舞台美術：イヴァン・ゲッデルト

照明：三枝 淳 (ドイツ初演 演協 奏)

衣装：イザベル・ワブニッツ

日本公演協力：深堀絵里、齋藤 徹、喜多直毅

日本公演助成

デュッセルドルフ地方政府 Bezirksregierung Düsseldorf

ゲーテ・インスティテュート東京ドイツ文化センター Goethe-Institut Tokyo

Bezirksregierung
Düsseldorf



GOETHE
INSTITUT

プロジェクト助成

ハンス・ペーター・ツィマー基金 Hans Peter Zimmer Stiftung

州都デュッセルドルフ文化局 Kulturrat Landeshauptstadt Düsseldorf

社団法人NRW州独立舞台芸術 NRW Landesbüro Freie Darstellende Künste

NRW芸術基金 Kunststiftung NRW

国際交流基金 Japan Foundation

HANS PETER ZIMMER
STIFTUNG

Kulturrat
Landeshauptstadt Düsseldorf

NRW Landesbüro
Freie Darstellende Künste

Kunststiftung
NRW

JAPAN FOUNDATION

ダンス作品《Gebrauchsanweisung zum Verschwinden / 『私』が消える時》は、振付家・皆藤千香子が、「消えること」と「社会の中でどのように私達は存在するか」という疑問を解決するアクティブなプロセスと解釈して創作した作品。「消えること」とは、その痕跡を残しながらも、今は過去となった存在を暗示するが、それは同時に、現代社会における個人主義の優勢に対して働きかける手段と見られることでもある。皆藤はドイツ在住のアーティストとして、故郷「日本」に対していなく社会的・文化的な意識や摩擦を、作品でパフォーマンスとして突き詰めている。

振付・皆藤千香子
ダンス・ヤシヤ・フィッシュテート
ユーディット・ヴィルヘルム
荒川創也
ヴァイオリン・喜多直毅



皆藤千香子 Chikako Kaido

コンテンポラリーダンス振付家、ダンサー。

ドイツの Folkwang Universität der Künste 芸術大学ダンス科、大学院振付家コース卒。

Folkwang Universität der Künste (ビナ・パウシュ、ロドルフ・レオーニ主宰) のダンサー、振付家を経て、2010年より、主にドイツ、デュッセルドルフにおいて活動中。横浜ダンスコレクション Masdanza 賞、2009、2012年、クルト・ヨース賞ノミネート、Masdanza グループ部門2位、ソロ部門審査員賞など。大学時代からヨーロッパ各地のダンスフェスティバル、日本、韓国で作品を上演。ドイツにおける単独公演としては、2014年「Home Hazard」、2015年「Azamino-Tokio」、2016年「Die Insel 島」、2017年「Gebrauchsanweisung zum Verschwinden / 『私』が消える時」、2018年5月予定「We Need Fiction」と毎年新作を発表。クラシックバレエ、モダンダンス、舞踏に影響を受けた身体表現とビナ・パウシュ的なダンスシアターの手法を使いながら、独自の表現を追求している。ダンサーとしての活動は、ソロ作品の発表のほか、2009年からジャン・サスポータスのプロジェクトに参加。近年は、齋藤徹、喜多直毅らジャンルを超えて活躍する音楽家や現代美術家とのコラボレーションが高い評価を得ている。

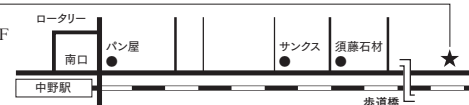
公式HP：www.chikakokaido.com

中野テルプシコール

〒164-0001 中野区中野 3-49-15-1F

03-3338-2728 (公演当日のみ)

〈中野駅南口より徒歩10分〉



皆藤千香子カンパニー そのほかの日本公演のご案内

ドイツ×日本 即興パフォーマンス in いざいざ「今ここ私2017」

日時：12月10日(日) 18:00 開演 ※開場は開演の30分前

会場：いざいざ 東京都大田区田園調布本町38-8 www.izuruba.jp

出演：齋藤 徹 (コントラバス)、矢萩竜太郎 (ダンス)、大塚惇平 (笙、うた)、ヤシヤ・フィッシュテート (ダンス)、ユーディット・ヴィルヘルム (ダンス)、荒川創也 (美術、パフォーマンス)、皆藤千香子 (ダンス)